

ため池 避難地図 ため池 ハザードマップ

～桜ため池～

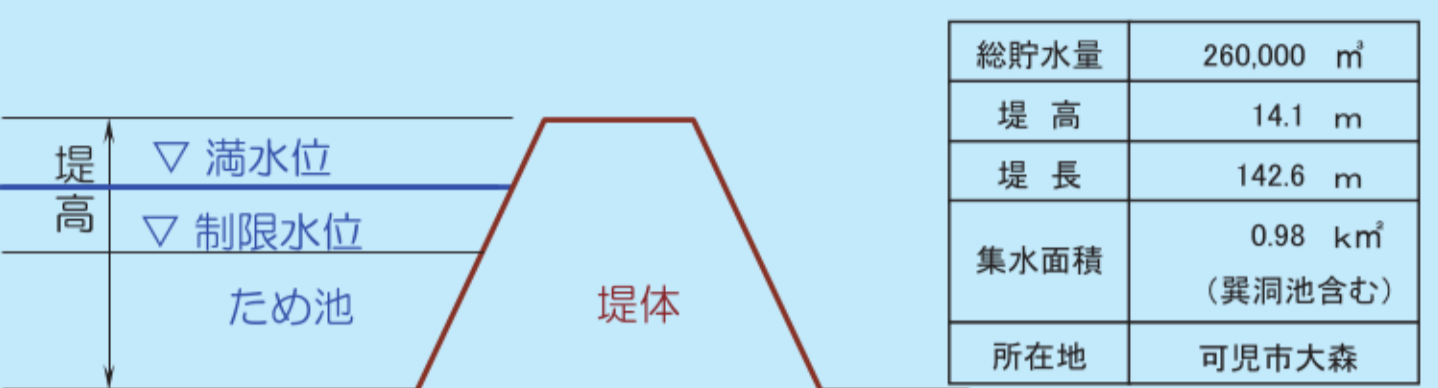


可児川防災等ため池組合 〒509-0203 可児市下恵土5166-1 62-1230
(可児市総合会館分室)
可児市役所 〒509-0292 可児市広見1-1 62-1111

桜ため池の役割

桜ため池は、可児市内の農地のかんがい、および、可児川・大森川の洪水を調整・抑制するために造られた貯水池です。貯えられた水は、農業用水に利用されていますが、渇水時には可児川の流水の確保にも役立っています。夏季には、台風などによる豪雨を一時的に溜め込むことにより、可児川への流出量を調整して、人命・住宅・農地・道路などを洪水から守っています。このように、河川の美しい景観や親水空間を提供するとともに、水辺の生物の多様性を支える重要な役割を果たすなど、多面的機能を有した地域の大切な施設となっています。

桜ため池の規模



総貯水量	260,000 m ³
堤高	14.1 m
堤長	142.6 m
集水面積	0.98 km ² (巽洞池含む)
所在地	可児市大森



桜ため池ハザードマップの解説

- 堤体決壊後、大森川沿いに流下し、10分後には、大森新田地区まで氾濫水が到達します。
- 20分後には大森公民館付近まで氾濫水が到達します。宅地部での浸水深は0～1.0mとなります。
- 40分後には広見田白地区付近の住宅地に氾濫水が到達し、浸水深は、0.5m程度となります。
- 50分後には可児川へ合流し、周辺で浸水深 0.5m 以下の氾濫を起こします。
- 50～60分まで、可児川周辺で 50cm 以下の氾濫を起こしながら流下し、60分以降、可児川河道内で氾濫が収束すると想定されます。

浸水区域の表記は、経過時間に伴う範囲を表記し、到達時間を示しています。

浸水区域を想定するための仮定条件

- 堤体決壊条件
 - 本ハザードマップは、ため池の堤体が満水時に決壊した場合の浸水状況を記載しています。
 - 堤体の決壊は瞬時に起こると仮定し、解析を行っています。
- 桜ため池の堤体決壊時の最大流出量と流出継続時間
 - 堤体が決壊した時の最大流出量は、560 m³/s、決壊からの流出継続時間は、15分を想定しています。
- 浸水区域の仮定
 - 浸水区域は、流下する地域の地形条件に堤体決壊時の最大流出量と流出継続時間を与え、降雨量はゼロとしてシミュレーションにより求めたものです。
 - 大雨による決壊の場合には、この浸水区域に加え、降雨および河川の水量が加わってきますので、浸水区域がさらに広がる可能性があります。

地震及び豪雨による堤体の決壊

地震および豪雨により堤体が決壊する被災形態、及びその被災メカニズムは下記のことが想定されています。

堤体の異常に気がついたら、防災関係機関などに緊急連絡するとともに、浸水想定区域の外に退避するようにしてください。

地震により堤体が決壊		豪雨により堤体が決壊	
被災形態	被災のメカニズム	被災形態	被災のメカニズム
<クラック> 	堤体の頂部などにクラック(亀裂)が発生する場合があります。堤体の上下流方向に生じるクラック(亀裂)は水みちとなることもあり、特に注意が必要です。	<浸透破壊> 	堤体内部が劣化して、水を遮る機能が低下し、貯水位が上昇したときに堤体の中の水圧も上昇して強度が低下し、破損する場合があります。また、堤体内に上流から下流に向かう水みちが発生し、破損する場合があります。
<沈下> 	堤体の形状をほぼ保ち、クラック(亀裂)などを伴いながら堤体が沈下する場合があります。多くは軟らかい地盤で発生しています。	<すべり破壊> 	貯留した水と降雨が堤体の中に浸透して、堤体内部の水分量が増加し、堤体の法面の強度が低下することによって、法面ですべりが発生し破壊する場合があります。
<斜面崩壊> 	堤体法面の上部が沈下し、下部がはらんで変形が生じる場合があります。	<貯水からの浸透> 	
<斜面すべり> 	地震動により堤体の法面にすべりが発生する場合があります。	<越流破壊> 	豪雨により、貯水位が急激に上昇し、堤体を超えて流れ出し、下流傾斜を流下することによって、破壊する場合があります。また、貯水位の上昇により、堤体内の水圧も上昇し、強度が低下して破壊する場合があります。
<崩壊> 	堤体や地盤が大きく変化し、崩落する場合があります。決壊に至ることが多く、堤体や基礎地盤の液状化によるものと考えられます。	<越流浸食> 	



強い地震により、ため池の堤体が決壊し、洪水となって襲ってくるかもしれません。大きなため池の下流では、雨が降っていても避難しましょう。ほかにも、大雨でため池の堤体が決壊することもあるかもしれません。

日頃からの準備はできていますか

住み慣れた家でも、いざ避難しようとする、慌ててしまいがちです。いざという時に慌てないためにも、避難方法や避難経路、避難場所を家族みんなで話し合っておきましょう。



また、非常持ち出し用品、服、履物など、いつも取り出しやすい一定の場所に保管し、保存期間や季節によって交換、補充しておきましょう。

携帯電話に登録しておく緊急時にメールが届きます

可児市	kani@sugumail.com に空メール
-----	-------------------------

緊急時の連絡先

名称	電話番号	名称	電話番号
可児川防災等ため池組合	62-1230	警察署(可児警察署)	61-0110
可児市役所	62-1111	消防署(南消防署)	62-0119
		消防署(可児分遣所)	64-2678

教えてください

ため池の決壊は、非常に危険で、下流域におられる方の人命にも関わる場合があります。ため池の異常や堤体からの水漏れ、決壊などに気づかれたときは、上記の連絡先に、一報をお願いします。



あなたの一報がみんなを救う

各種情報(インターネット・ホームページなど)

防災情報	可児市役所	http://www.city.kani.lg.jp/
気象情報	気象庁	http://www.jma.go.jp/jma
詳細気象レーダー	国土交通省	http://www.river.go.jp/xbandradar
河川水位情報		http://www.river.go.jp
交通情報	岐阜県	http://douro.pref.gifu.lg.jp/Road_Maintenance/kisei.asp
ケーブルテレビ	CTKケーブルテレビ可児	
ラジオ	F Mビビ(76.3Mhz)	F Mらら(76.8Mhz)

我が家はだいじょうぶ?



どんな時に避難するの

立ってられない大きな地震のとき
桜ため池に近い地区では、揺れが収まった直後(あるいは、揺れが長く継続するような場合には揺れている最中)に氾濫水が到達する場合があります。立ってられないような強い揺れを受けた場合には、できる限り早く浸水想定区域の外に退避しましょう。また、桜ため池より離れた地区でも、念のために浸水想定区域の外に退避するようにしましょう。

雨が白くなるような大雨が続いたとき
強い雨が降っている場合には、河川の増水に加えて、ため池の堤体決壊による氾濫水も念頭において、あらかじめ浸水想定区域の外の高い場所に退避するようにしてください。

避難勧告や避難指示を受けたら、速やかに避難してください

桜ため池に近い地区では、堤体の決壊が起きると氾濫水がすぐに到達します。そのため、避難情報が発令されてから行動しては、安全に避難できないことが想定されますので、決壊前に退避しておくことが重要なポイントとなります。
* 防災無線を聞き逃しても、専用電話で聞き直せます。(TEL 62-1548 可児市)

避難するときの注意事項

命を守るための避難は、必ずしも避難所へ行くことではありません。浸水想定区域の外へ退避して、難をやり過ごすことが重要です。

- 避難するときは丈夫な靴、動きやすい服装で、安全な経路を歩いて徒歩で避難する。<車やオートバイは厳禁>
- 洪水は、浅くても危険です。無理に流れのある場所には入らない。
- 火の元(ガスコンロ、たばこ、ストーブ等)を確認、消火する。
- 外出中の家族がいる場合は、伝言メモを残しておく。

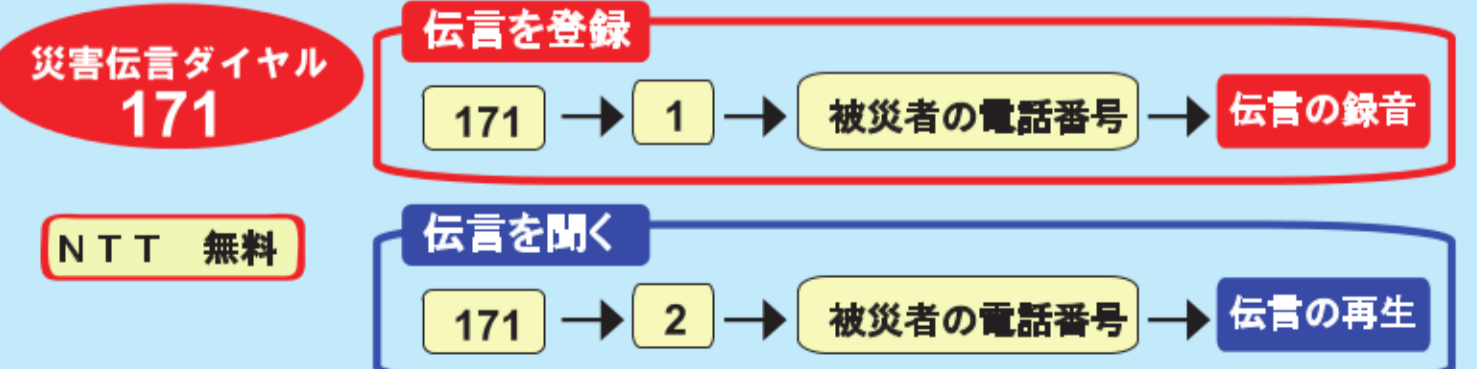


指定避難所一覧表

第1次避難所		
名称	住所	電話番号
桜ヶ丘公民館	卓ヶ丘六丁目1-1	64-0051
平牧公民館	二野2547-4	62-0067

その他避難所			
名称	電話番号	名称	電話番号
桜ヶ丘小学校	64-0700	東可児中学校	64-2700
帝京大学可児高等学校	64-3211	老人福祉センター福寿苑	63-3333
Lポート可児	61-0111		

避難した後



- 携帯電話会社でも、大きな災害時には災害用伝言板を開設しています。伝言は他社の携帯電話やパソコンからも確認することができますので、あらかじめサービス内容を確認しておきましょう。(例)(ドコモ:災害用音声お届けサービス)
- 災害救助法が適用される規模の災害時には、公衆電話(緊急通報ボタン付)から、緊急ボタンを押して、無料で通話することができます。